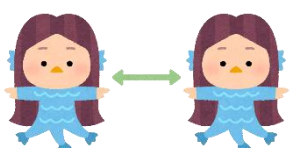


言葉の順序

一次のカードをならべかえて、意味の通る文にしましょう。



1.

木を
庭に
植えた
ぼくは
昨日

2.

全力で
私は
十時に
走った
一キロ

意味が通るような文にするにはいろいろな並べ方があります。

1なら例えば、「ぼくは昨日木を庭に植えた」「昨日、僕は庭に木を植えた」など。2なら「私は十時に一キロ全力で走った」「十時に私は全力で一キロ走った」など。答えはいくつかありますが、1の植えた、2の走ったを最後に書いた人が多いと思います。

「植えた」「走った」などという文の**述語**にあたる言葉は書き言葉ではふつう**文末**に置きます。(話し言葉では、最後になくても意味が通じることがあります。)

文の中の主語と述語の関係

「かえるくんは言いました。」のように、**主語**と**述語**が一つずつの文もあります。一つの文の中に主語と述語が二つ以上でてくる場合もあります。

主語には \_\_\_\_\_ 線、述語には \_\_\_\_\_ 線を引きましょう。

① 枝が のび、葉が しげる。

② ぼくが 植えた 木が 育った。

線は引きましたか。確かめです。

① 枝が のび、 葉が しげる。

この文では二つのことを言っているので、二つの主語と述語があります。二つとも同じくらい大事（対等）なのでこのような文になっています。

②の主語と述語は

② ぼくが 植えた 木が 育った。

です。主語と述語はこれでは अच्छりです。今回はさらにもう一つ大事なことを伝えます。

この文の中で中心となるのは、「木が育った」の方ですね。（①と比べると文が対等ではないということです。）意味的には「木」は「ぼくが植えた」木、ということになります。つまり、「ぼくが植えた」は、「木が」を修飾しているということです。図に表すと、  
しゅうしょく

② ぼくが 植えた 木が 育った。



このような文は、意味が通じにくいので、次のように二つの文にすることができます。

ぼくが木を植えた。その木が育った。

「その」という指示語を使って一つ目の文章の内容を伝えています。

### 練習タイム

次の文の中の、主語 \_\_\_\_\_ と述語 \_\_\_\_\_、修飾 \_\_\_\_\_ の関係を書きこみましょう。

一 今朝は、めざまし時計が故障したうえに、弟とけんかした。

二 立派なウサギ小屋が完成し、飼育委員は喜んだ。

三 ぼくが通うサッカースクールが、学校の近くに移転した。